

# 「久ちゃんへ」

林 弘子（愛知県春日井市／79歳 女性）

久ちゃんが遠くに逝ってから、もう四十二年の年月が経ちましたね。元気でいれば五十二歳のおじさんですよ。でも、お母さんにはいつまで経っても九歳の姿のままです。

昭和四十四年十月四日、あなたは弟の利ちゃんと元気に登校したのですが、再び元気に帰ってくることはありませんでした。

校庭の遊具から落ち、それが原因で、三日後あっけなく不帰の人となってしまいました。当初、外傷もなく元気そうだったので安心していましたが、容態が急変したのです。お父さんは、「足でも悪かったら、あんな高い所には登らなかったらいいのに・・・。」と、悔しがっていました。

信じられない出来事に遭遇して、茫然自失の日々が続きました。何をしても、何を見ても身が入らず、悶々とした日々を送っていたのです。

二カ月も経った頃、母親のように慕っていた高校時代の恩師・M先生を訪ねました。先生は、長男を亡くしたという私の話を聞いてしばらく考え、おもむきに口を開かれました。

「命は命で償いなさいよ。もうひとり育てていらんなさい。」

意外な言葉に驚きました。

一年後、幸運にもコウノトリが女の子を連れてきてくれました。久しぶりに明るい気持ちになったことを思い出します。育児の忙しさにまみれて悲しみも少しずつ薄らいでいくように感じました。久ちゃんが会えなかった妹ですよ。

その娘も結婚して二児の母になり、私はその娘の家族と共に楽しく暮らしています。あなたがいたらきっと、かわいがるでしょうね。

お庭にはいつも季節の花が咲いていますよ。春にはパンジー、チューリップ、水仙等。秋には久ちゃんの好きだったコスモスがゆらゆら揺れています。

時々、お庭を見に来てね！

